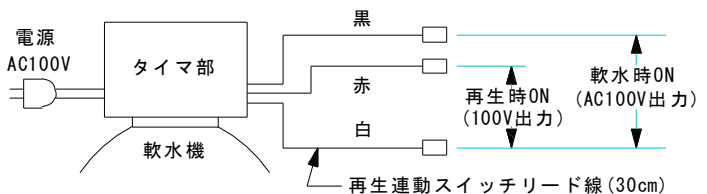


はじめに

軟水機(オートソフナー)設置にあたり据付、稼働条件によって補器類との連動が必要となった場合には、軟水機に装備されている再生連動スイッチを利用して制御することができます。以下に再生連動スイッチの概要と使用例を記載いたしますので、ご参照の上、ご活用下さい。

1. 再生連動スイッチの概要

再生連動スイッチは、軟水機のタイマ部より3本のリード線(白、黒、赤)で、有電圧出力されています。(右図参照)
スイッチの接点容量は、**3A、125V/250VAC**(誘導負荷)となっています。



2. 使用例

- 1) 再生中の原水が軟水配管に流入するのを防止するため、軟水配管に設けた電磁弁(再生中"閉"とする)の制御。

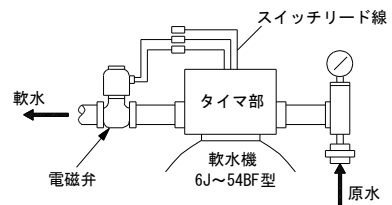
〔電磁弁が"通電開"型の場合〕

スイッチリード線の白と黒を直接電磁弁の端子に接続。

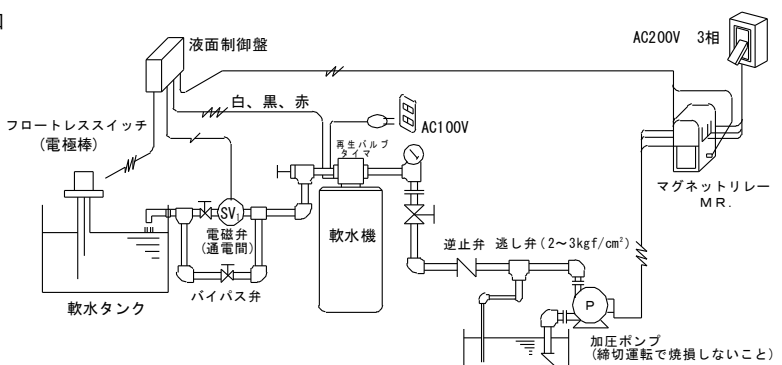
〔電磁弁が"通電閉"型の場合〕

スイッチリード線の白と赤を直接電磁弁の端子に接続。

※90CF型以上は、再生時に自動的に軟水配管を閉塞しますので(原水の流入なし)電磁弁の設置は不要となります。

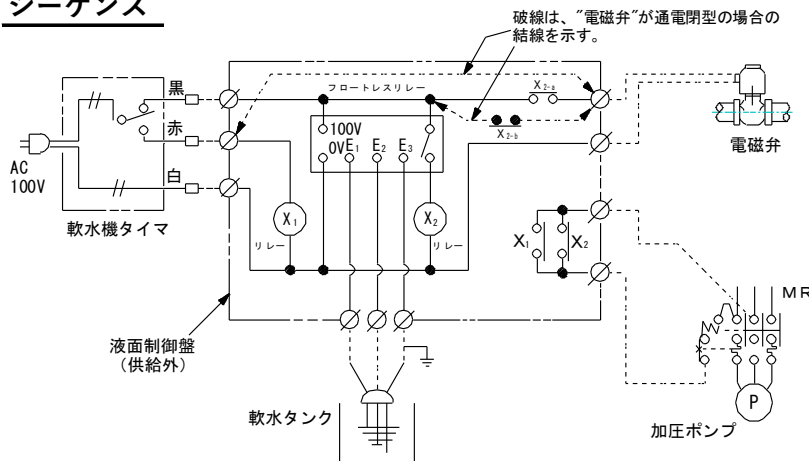


- 2) 軟水タンクの液面制御が、"フロートレススイッチ"等により"加圧ポンプ"や"電磁弁"が連動して水位制御されている所で、再生中の加圧ポンプ連続運転や電磁弁の閉塞動作を共用させる制御方法。
右図のようなフローシートにおけるシーケンスは、下図のようになります。



フローシート

シーケンス



※電磁弁が"通電開"型の場合は、接点(X₂-a)を実線のように接続する。

※電磁弁が"通電閉"型の場合は、接点(X₂-a)をはずして、代わりに接点(X₂-b)を破線のようにつなぎ、さらにタイマーの再生連動スイッチリード線(赤)から直接電磁弁の1端子に破線の如く接続する。